

# がん検診受診率向上等に向けた 取り組みの進捗状況について

100

100

## 目 次

I	計画策定の経緯	2
II	取り組み計画	
	取り組み計画表（行政）参考①	3～6
	取り組み計画表（関係機関・団体）参考②	7～8
III	取り組み計画における進捗状況	9～

## 計画策定の経緯

### 1 目的

がん検診受診率向上に向けて、より効果的・効率的な方策を展開していくため、健康くまもと21推進会議がん部会による市民、関係機関・団体等のアンケート調査等を踏まえて、市民、関係機関・団体等それぞれが、課題への対応策に積極的に取り組むことで、市民のがん検診の受診率の向上及びがんによる死亡率の減少を図る。

### 2 方法

デルファイ法を活用したアンケート調査（1次調査～3次調査で構成）を健康くまもと21推進会議委員25名を対象に実施。「がん検診受診率向上に向けて課題」9つを選出し1位～9位までの優先順位をつけた。その課題について、市民、関係機関・団体等が具体的な方策を展開していくため、それぞれが取り組み計画を立て実践していく。

(1) 行政の取り組み計画

(2) 市民、関係機関・団体等の取り組み計画

※デルファイ法とは、メンバーがアンケートを通してそれぞれの意見を出し合い、出された結果を相互に参照し、再び意見を出し合う作業を行い意見をまとめていく方法。

### 3 進行管理

健康くまもと21推進会議に報告

# 取り組み計画における進捗状況

順位	カテゴリー名
1位	がんに関する正しい認識と理解

1. 関係機関・団体における主な取り組み

具体的な内容		関係機関・団体
1	イベントのタイアップ、協賛	熊本市歯科医師会
2	保健師さんと一緒にイベントなどで広報	地域包括支援センター連絡協議会
3	個別保健指導や健康セミナーにおいて、医療費の現状から検診の重要性を対象者にパンフレットを活用しながら説明している。	熊本県保険者協議会
4	・受診券送付時に熊本市のがん検診情報の同封。 ・平成27年2月17日に、熊本県主催協会けんぽ熊本支部共催により、職域への子宮頸がんセミナーを実施。	全国健康保険協会熊本支部
5	マスメディアのがん検診啓発キャンペーンに協賛 ①がん専門家・体験者によるセミナーへ協賛 ②イベントにおけるがん検診啓発ブースの出展とCM協賛	日赤熊本健康管理センター
6	8月23日「大腸がん撲滅大作戦」と称し、県内企業トップや社員、大学関係者、一般の方、県内外学生サポーターを招待し、社会医療法人高野会山田一隆院長に「大腸がんの最近の診断と治療」についての講演を開催。参加者150人に大いなる共感を喚起し正しい知識の普及と理解を寄与した。	日本がん予防協会
7	定例園長会の中で、がん検診を勧める熊本市の資料を配布。 『がんは、早期発見すれば90%以上が治ります』と説明し、性別や年代によって、なりやすいがんの種類が変化することやがん検診の大切さを認識・理解しました。	熊本市保育園連盟
8	会員に対し「がん予防と食生活」等のリーフレット(日本栄養士会発行)を配布し、地域活動に役立てた。	熊本県栄養士会
9	委託事業の時に啓発活動(チラシの配布)	熊本市食生活改善推進員協議会
10	各イベント(校区運動会、夏・秋祭り、健康づくりウォーク)等でチラシの配布を実施	熊本市8020健康づくりの会
11	熊本市が作成配布しているパンフレット等をいただき、定例会時などで配付し民生委員・児童委員に周知する。	熊本市民生委員児童委員協議会
12	熊本市が制作配布したパンフレットをいただき、校区で開かれる各種会議やイベント(ウォーキングクラブの活動や校区で行っている「防災と健康フェスタ」のコーナー)で、参加者に配付して受診を呼び掛けた。	中央区内
13	健康まちづくりサポーター 1期目のフォローアップ講座と2期目の養成講座の終了。規約や体制を自主的に計画中。	東区内
14	城西校区自治協議会の協力を得て、全町内へ回覧板にて周知	西区内
15	毎月第一土曜日に自治協議会の定例会が行われますが、各校区の保健師さんも時々出席されますので、その席で各種団体の事業(行事)毎にパンフレットやリーフレットを配布。	北区内

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	わくわく健康塾にてがん講演会の開催(参加者69名) 7/21「知ってください乳がんのこと」内容:乳がん体験者の体験談、専門医の講話	健康づくり推進課
2	中央区全ての校区で、イベント・健康講座・会議等の場で、がんについての情報提供、がん検診受診勧奨を行った。(実施状況 19校区 92回 延2886人)	中央区保健子ども課
3	・1歳半健診時(34回 延べ1,473人)、3歳児健診時(34回 延べ1,452人)にて熊本市のがん検診のパンフレットを配布し、啓発を行った。 ・子育てネットワーク・サークル・児童室等における健康教育の場で啓発を行った。	中央区保健子ども課
4	校区単位で行うイベント等での啓発 (86回、延2,815人に実施)	東区保健子ども課
5	1歳6ヶ月児健診 91回1,971人、3歳児健診 36回1,901人の保護者を対象にリーフレットを用いて啓発を行った。その他、CKD予防教室(3回101人)、糖尿病予防教室(2回81人)、健康まちづくりサポーター(33人)に対して啓発を実施。校区担当保健師より個別の家庭訪問、健康相談時にかんやがん検診についての情報提供を行った。	東区保健子ども課
6	・H26.8.9に隈庄校区自治協議会主催で、子宮ガンについての講演会を実施し、70名が参加。 ・子育てサークルでの啓発:3校区、4回、56名に実施。 ・高齢者サロンでの啓発:9校区、14回、357名に実施。 ・民児協での啓発:11校区、20回、179名に実施。 ・地域イベント:17校区、75回、3232名に実施。 ・歯科活動にて、2回、30名に実施。 ・栄養士活動にて、10回、222名に実施 (内、がん征圧月間にて実施は3校区、14回、1538名に実施)	南区保健子ども課
7	・年間通して、1歳半健診、3歳半健診にてリーフレットを配布し、母及び家族への受診勧奨を行った。(1歳半健診:1325名、3歳半健診:1395名) ・南区健康いきいきフェスタでがんブースを作ることはできなかったが、CKDコーナー等でがん啓発も行った。	南区保健子ども課
8	各校区の健康まちづくりの組織に、学校PTAが多く参入しており、各種取り組みにおいて協力が得られている。また、学校との連携で学校保健委員会や就学時健診、PTA行事等で啓発活動を実施。	西区保健子ども課
9	・幼児健診(1歳6か月児・3歳児健診)では、毎回全受診者に子宮がん検診(対象年齢の方には、乳がん検診)のリーフレットを渡して受診確認と未受診者への受診勧奨を実施。 ・各校区の高齢者サロンや子育てサークルで、適宜情報提供を実施。 ・民児協、自治協、社協議にて、適宜情報提供を実施。特に、巡回検診や集団健診の時期にあわせてタイムリーな啓発を実施した。	西区保健子ども課
10	・校区担当保健師から、受診率を含め校区の健康課題を提示し、健康まちづくり部会等の組織で対応策を協議。校区の特徴に応じた具体的な活動を展開している。 ・各校区の地域イベント、リレーシンポジウム、西区フェスタ、健康まちづくり研修会等の機会を捉えて啓発を実施できた	西区保健子ども課
11	・各校区の健康まちづくり活動の投稿実績は31件。 ・健康まちづくりの活動報告やPRなど、地域と記事を作成し掲載できた。	西区保健子ども課
12	・幼児健診:2655人(通年実施)、所外での育児相談:1回5人、子育てのイベント:2回115人、子育てサークル:16回238人 ・保育園の保護者会:4回 112人、養護教諭交流会:1回11人、学校保健委員会:2回152人、PTAのイベント:3回129人、子育て支援センター等:5回 65人 ・校区の行事での啓発 10回1637人	北区保健子ども課
13	月ごとの年間啓発計画を作成し、計画的に啓発を行った	北区保健子ども課
14	「脳血管疾患及び心疾患」をテーマに実施。平成27年度もこのテーマでの開催予定。平成28年度以降、がんやがん検診についての演題を検討したい。	医療政策課
15	がんに関する講演会や研修会の情報を発信した。(18件)	医療政策課

順位	カテゴリー名
2位	効果的・効率的な広報

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	ポスター、チラシの配布	熊本市歯科医師会
2	・リレーフォーライフくまもとへの後援及び参加。 ・各種イベントや研修会及び健診受診勧奨時、機会あるごとにがん対策推進企業アクション作成の「がん検診のススメ」冊子を配布	全国健康保険協会熊本支部
3	ラッピングバスへの広報協賛 ①平成25年10月～平成26年9月 乳がん(ピンクリボン) ②平成26年9月～ 子宮頸がん	日赤熊本健康管理センター
4	県内大学2校に学生サポーターチームが結成。更に本年度2校追加され、4チーム体制となり啓発活動に一層の力が入ってきた。基本的に核となる部員が各大学に5～12名存在し、その外枠にフレンドサポーターといった形で30名程度ずついる形をとっている。行動は基本は自主的だが我々協会と連携をとっている。他の広報団体・企業も6団体ある。大腸がん予防を印刷したトイレトペーパーの普及を行っている。既に5万個使用中。	日本がん予防協会
5	会員園で職員に説明する他に、掲示板等の保護者や来客等が見やすい場所に、資料やリーフレットを掲示するように依頼した。	熊本市保育園連盟
6	PTA主催のバザーの日(12/7)に同じ会場でがん検診(女性検診含む)を開催した。	熊本市小学校長会
7	熊本市商工会議所ホームページ「新着情報」に平成27年1月5日より「がん検診のご案内～クーポン～クーポン券の有効期限が迫っています」を掲載。	熊本商工会議所
8	委託事業の時に啓発活動(チラシの配布)	熊本市食生活改善推進員協議会
9	チラシの配布	熊本市8020健康づくりの会
10	日頃の民生委員・児童委員の活動の中で、地域の方より相談された時など、関係機関へつなげる。	熊本市民生委員児童委員協議会
11	・熊本市が制作配布したパンフレットをラミネート加工して、向山地域コミュニティセンターの掲示板に常設して展示。来場者がいつでも手軽に見ることができるようにした。 ・ウォーキングクラブの参加者等に口コミで受診を呼び掛けた。	中央区内
12	各校区(18校区)でそれぞれ自治協等で行われているまちづくりのイベントに保健師の皆さんの協力で地域住民の一人おひとりに健康チェックやがん検診のPRがなされている。	東区内
13	今後も有志で開催している「城西フリーマーケット」の宣伝のためにテレビに出させてもらい、ついでにがん検診受診の大切さを広報させてもらえれば効果があると思う。	西区内
14	健康フェスティバル、はあもにいフェスタなどのイベントに参加し、がん検診受診に関するチラシを配布。	南区内・他
15	区役所より要請があれば各種スポーツ大会等でチラシを配布。	北区内



2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん協定企業及び大学生とのパンフレット作成</li> <li>大腸がん、乳がん、子宮頸がん検診についてのパンフレットを関係機関とワーキンググループを設置し協働で作成した。その模様が協定企業のテレビ局にて放送された。</li> <li>・すばいすへの掲載</li> <li>女性のがんについての記事を掲載</li> </ul>	健康づくり推進課
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区内の団体・役員との協議を行い、以下のような取り組みを行った。</li> <li>・コミュニティセンターへのチラシの設置</li> <li>・小学校PTA安心メールでがん検診受診勧奨を一斉送信</li> <li>・伝言ゲーム形式で、がん検診受診勧奨</li> </ul>	中央区保健子ども課
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会、11月の区民まつり、3月の健康フェスタin東区でがんやがん検診についての情報提供を行った。</li> <li>・校区単位で行ったイベント(上記①)86回、延2,815人</li> <li>・区民まつり 1回50人、健康フェスタ1回71人</li> <li>・校区単位以外のイベント等 5回 146人</li> </ul>	東区保健子ども課
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシやパネル等による広報を実施。校区の巡回健診の日程に合わせ、チラシを作成し、広報を行った。</li> </ul>	東区保健子ども課
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校区の健康まちづくりの組織に、学校PTAが多く参入しており、各種取り組みにおいて協力が得られている。また、学校との連携で学校保健委員会や就学時健診、PTA行事等で啓発活動を実施。【再掲1位8】</li> </ul>	西区保健子ども課
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児健診(1歳6か月児・3歳児健診)では、毎回全受診者に子宮がん検診(対象年齢の方には、乳がん検診)のリーフレットを渡して受診確認と未受診者への受診勧奨を実施。</li> <li>・各校区の高齢者サロンや子育てサークルで、適宜情報提供を実施。</li> <li>・民児協、自治協、社協会議にて、適宜情報提供を実施。特に、巡回検診や集団健診の時期にあわせてタイムリーな啓発を実施した。【再掲1位9】</li> </ul>	西区保健子ども課
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区担当保健師から、受診率を含め校区の健康課題を提示し、健康まちづくり部会等の組織で対応策を協議。校区の特徴に応じた具体的な活動を展開している。</li> <li>・各校区の地域イベント、リレーシンポジウム、西区フェスタ、健康まちづくり研修会等の機会を捉えて啓発を実施できた。【再掲1位10】</li> </ul>	西区保健子ども課
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校区の健康まちづくり活動の投稿実績は31件。</li> <li>・健康まちづくりの活動報告やPRなど、地域と記事を作成し掲載できた。【再掲1位11】</li> </ul>	西区保健子ども課
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隈庄校区と豊田校区で、青少協と協働で小学生と中学生に健康標語募集し、優秀作品を掲載するとともに、がん検診受診勧奨の内容を入れたチラシを全戸配布。</li> </ul>	南区保健子ども課
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民協・社協・高齢者サロン・健康教室等で実施 60回1349人</li> </ul>	北区保健子ども課
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本癌治療学会市民公開講座「進歩し続ける医療」(熊本市後援)の中で、検診の重要性の広報を行った。(7月)</li> </ul>	医療政策課

順位	カテゴリー名
3位	がん検診の受診方法の周知

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	歯科医院でのポスターの掲示	熊本市歯科医師会
2	イベント・サロンなどで保健師さんと一緒に周知を図った。	地域包括支援センター連絡協議会
3	・全事業所への生活習慣病予防健診の案内送付。 ・受診券送付時に熊本市のがん検診情報の同封。	全国健康保険協会熊本支部
4	・ホームページ上で、来所した受診者に対して、広報誌を通じて等周知方法を紹介	日赤熊本健康管理センター
5	・学生サポーター同士や友人、その家族への検診受診への誘い、受けた人の体験を伝え個人啓発を拡げている。 ・支援企業にはくまもん人形の「がん検診を受けましょう」のタスキ掛けを施し、人目につくところに受診勧奨のチラシと共に配布。 ・「子宮頸がん検診を受けましょう」のラッピングバスの運行実施。	日本がん予防協会
6	熊本市健康づくり推進課作成のリーフレットに、がん検診内容や対象者、自己負担額、検診会場(医療機関一覧)等を紹介してあるので、園長や検診担当者より職員に周知してもらうように依頼した。	熊本市保育園連盟
7	上記(2位6)に関して、保護者へは学校より、地域については自治会を通じてプリントを配布。	熊本市小学校長会
8	委託事業の時に啓発活動(チラシの配布)	熊本市食生活改善推進員協議会
9	声かけ等に努力した	熊本市8020健康づくりの会
10	定例会等で配付したパンフレット等の情報を民生委員・児童委員へ周知し、日頃の活動の中で必要に応じて関係機関を紹介する。	熊本市民生委員児童委員協議会
11	・熊本市が制作配布したパンフレットで、向山校区の受診場所をマークして一目でわかるようにした。 ・会議の合間などに話題にすることで、受診によって早期治療ができた方の体験談などを聞く機会を持った。	中央区内
12	3/15(日)「東区健康フェスタ」を開催 今年度、健診は受けられましたか？ 東区役所にて、健康イベントや各種健診(事前申込が必要)を実施します！ 日時:平成27年3月15日(日)午前9時～午後2時 場所:東区役所 内容: (1)健康イベント 体力測定、血管年齢測定など (2)各種健診 特定健診、各種がん検診など その他、東区アグリネットによる野菜即売会なども実施	東区内

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	校区内の団体・役員との協議を行い、以下のような取り組みを行った。【再掲2位2】 ・コミュニティセンターへのチラシの設置 ・小学校PTA安心メールでがん検診受診勧奨を一齐送信 ・伝言ゲーム形式で、がん検診受診勧奨	中央区保健子ども課
2	家庭訪問時や地域役員とのやりとりの中で、個別に周知を行った。	中央区保健子ども課
3	校区単位で行うイベント等での啓発 (86回、延2,815人に実施)【再掲1位4】	東区保健子ども課
4	1歳6ヶ月児健診 91回1,971人、3歳児健診 36回1,901人の保護者を対象にリーフレットを用いて啓発を行った。その他、CKD予防教室(3回101人)、糖尿病予防教室(2回81人)、健康まちづくりサポーター(33人)に対して啓発を実施。校区担当保健師より個別の家庭訪問、健康相談時にがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲1位5】	東区保健子ども課
5	校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会、11月の区民まつり、3月の健康フェスタin東区でがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲2位3】 ・校区単位で行ったイベント(上記①)86回、延2,815人 ・区民まつり 1回50人、健康フェスタ1回71人 ・校区単位以外のイベント等 5回 146人	東区保健子ども課
6	各校区の健康まちづくりの組織に、学校PTAが多く参入しており、各種取り組みにおいて協力が得られている。また、学校との連携で学校保健委員会や就学時健診、PTA行事等で啓発活動を実施。【再掲1位8】	西区保健子ども課
7	・幼児健診(1歳6か月児・3歳児健診)では、毎回全受診者に子宮がん検診(対象年齢の方には、乳がん検診)のリーフレットを渡して受診確認と未受診者への受診勧奨を実施。 ・各校区の高齢者サロンや子育てサークルで、適宜情報提供を実施。 ・民児協、自治協、社協会議にて、適宜情報提供を実施。特に、巡回検診や集団健診の時期にあわせてタイムリーな啓発を実施した。【再掲1位9】	西区保健子ども課
8	・校区担当保健師から、受診率を含め校区の健康課題を提示し、健康まちづくり部会等の組織で対応策を協議。校区の特徴に応じた具体的な活動を展開している。 ・各校区の地域イベント、リレーシンポジウム、西区フェスタ、健康まちづくり研修会等の機会を捉えて啓発を実施できた。【再掲1位10】	西区保健子ども課
9	・各校区の健康まちづくり活動の投稿実績は31件。 ・健康まちづくりの活動報告やPRなど、地域と記事を作成し掲載できた。【再掲1位11】	西区保健子ども課
10	以下の機会を利用して、がん検診実施期間を周知。 隈庄校区と豊田校区で、青少協と協働で小学生と中学生に健康標語募集し、優秀作品を掲載するとともに、がん検診受診勧奨の内容を入れたチラシを全戸配布。【再掲2位9】	南区保健子ども課
11	・幼児健診 2655人(通年実施) ・校区の行事での啓発 10回1637人 【再掲1位12】	北区保健子ども課
12	40歳以上の国保被保険者に対して、特定健診とがん検診の受診方法についての詳しい説明リーフレットを個別に配布し周知を図った。	国保年金課
13	がん相談ホットラインに入った検診に関する問い合わせについては、適切に周知を行った。 がんサポートセンター便りの発行については未実施	医療政策課

順位	カテゴリー名
4位	気軽に受診できる環境づくり

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣病予防健診実施機関の拡大(平成26年度中2機関増の66機関)。</li> <li>平成26年11月29日に熊本市国保・後期高齢・協会けんぽ被扶養者の集団検診(特定健診+がん検診)を実施。</li> <li>平成27年3月15日に東区フェスタ(特定健診+がん検診の集団検診)実施予定。</li> </ul>	全国健康保険協会熊本支部
2	東区健康フェスタ(3月)にて協会けんぽ生活習慣病予防健診を実施予定	日赤熊本健康管理センター
3	上記(2位3位)の学生サポーターの活動は受診者層の拡大を計り、がん検診受診ムードを作る。大学の広報誌にもサポーターの活用の様子を掲載する。	日本がん予防協会
4	気軽に受診の相談ができる職場環境づくりや、職員の受診希望日や一般健診時にがん検診をオプションで選択追加できるように受診日程等の配慮をお願いした	熊本市保育園連盟
5	保護者が来校するバザーの日にがん検診の場を設置した。	熊本市小学校長会

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日曜がん検診はこれまでと同様実施(10月～11月、2月)。実施日の増設についての協議は未実施。</li> <li>・街なか健診の実施 市役所本庁にて特定健診とがん検診を実施した(11月) 肺がん(100名)、胃がん(60名)、大腸(85名)の受診。</li> </ul>	健康づく推進課
2	<p>特定健診に関する内容が主であるが、グループワークの中で、特定健診とがん検診とをセットで実施することでの受診率向上や行政と医療との連携の重要性について意見交換ができた。申し込み医療機関に対して、複合型集団健診の拡充や街なか健診実施による受診しやすい環境づくりに関して、情報提供を行った。</p>	中央区保健子ども課
3	<p>東区管内の医療機関とのネットワーク連絡会である生活習慣病対策ネットワーク会議の企画会議を5、9、1月の3回実施し、医療機関から延16名参加、生活習慣病対策ネットワーク連絡会議10月に1回実施、医療機関から21名参加。</p>	東区保健子ども課
4	<p>健康学習会や会議、育児サークル等を活用し、日曜がん検診の情報提供を行った。</p>	東区保健子ども課
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松尾北校区で実施。H27・2・24 松尾北コミセンにて。</li> <li>・健康まちづくり部会の会議等で適宜情報提供を行う。</li> </ul>	西区保健子ども課
6	<p>10月に、特定健診の受診強化月間と同時に大腸がん健診の受診勧奨も実施。専用のチラシを作成し、地域の健康まちづくり活動と同時に、西区の医療機関でも啓発活動を実施した。</p>	西区保健子ども課
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・城南地区、富合校区、飽田地区、天明地区、力合校区、日吉東校区、田迎校区については、前年度通り、特定健診と抱き合わせて実施。</li> <li>・H26年11月26日、平成分室にて、集団特定健診にあわせて、肺がん検診及び大腸がん検診(検査容器を配布)を実施。</li> </ul>	南区保健子ども課

順位	カテゴリー名
5位	校区単位の健康まちづくりの展開

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	各区の講演会への講師派遣	熊本市歯科医師会
2	平成27年3月15日に東区フェスタ(特定健診+がん検診の集団検診)実施	全国健康保険協会熊本支部
3	地域公民館講座に医師、保健師、運動指導士が出向き講義した。	日赤熊本健康管理センター
4	市内某校区に拠点を設置(長年シャッターが下りている商店街の一角を借用)。内部を改装し地域の健康まちづくり開始。地域自治会、商店会、地域包括支援センター等と連携し、がん患者むけだけでなく広く健康まちづくりの拠点としたい。また、地区公民館の活動の中で「地域づくりは健康づくり」として講演を実施。更に人の集まる場所への啓発ラッピング自販機の設置を行っている。	日本がん予防協会
5	単位PTAでは、校区と一体となった行事をしているところは多く、その中で、健康コーナーを設置した校区もあった。その中でがんに関する啓発も行われた。(学校数までは未把握)	熊本市PTA協議会 常任理事
6	様々なイベントに参加し、チラシ配布等ができた。	熊本市8020健康づくりの会
7	ウォーキングクラブ(主催/自治協、担当/体協・まちづくり委員会)の活動を前年に引き続いて実施した。特に今年度は、校区の史跡めぐりウォーキング(2/1)に、これまで参加していなかった人の参加が目立ったほか、参加者による茶話会(2/22)を実施して、参加意欲の向上と今後の健康まちづくり活動のリーダー養成を図ったのが特徴である。また、3/15には、JR熊本駅から市電に乗って市立体育館前に行き、みんなで江津湖畔の遊歩道をウォーキングし、さらに参加者意欲を高めようと考えている。	中央区内
8	城西校区健康まちづくり部会で「歩け歩け運動」を行い地域の方々120名が参加。歩いた後は地域民生委員とPTA有志で豚汁を作りふるまった。	西区内
9	校区の運動会(700名)、秋のウォークラリー(350名)、盆踊り(1500名)等イベントがあるのでパンフレット等を配布。27年度からは区役所より要請があれば実施。	北区内

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	がん検診の受診率等のデータ、がん検診パンフレット等を情報提供した。	健康づくり推進課
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央区すべての校区で、イベント・健康講座・会議等の場でがん検診受診の普及啓発を実施。(実施状況 19校区 92回 延2886人)【再掲1位2】</li> <li>・校区内の団体・役員との協議を行い、以下のような取り組みを行った。【再掲2位2】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティセンターへのチラシの設置</li> <li>・小学校PTA安心メールでがん検診受診勧奨を一斉送信</li> <li>・伝言ゲーム形式で、がん検診受診勧奨</li> </ul> </li> </ul>	中央区保健子ども課
3	校区単位で行うイベント等での啓発 (86回、延2,815人に実施)【再掲1位4】	東区保健子ども課
4	<p>校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会、11月の区民まつり、3月の健康フェスタin東区でがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲2位3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校区単位で行ったイベント(上記①)86回、延2,815人</li> <li>・区民まつり 1回50人、健康フェスタ1回71人</li> <li>・校区単位以外のイベント等 5回 146人</li> </ul>	東区保健子ども課
5	健康まちづくりサポーター1、3期生に対してがん、がん検診等について啓発。校区単位の健康まちづくり活動の中でがん検診の広報を行った。	東区保健子ども課
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区担当保健師から、受診率を含め校区の健康課題を提示し、健康まちづくり部会等の組織で対応策を協議。校区の特徴に応じた具体的な活動を展開している。</li> <li>・各校区の地域イベント、リレーシンポジウム、西区フェスタ、健康まちづくり研修会等の機会を捉えて啓発を実施できた。</li> </ul>	西区保健子ども課
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富合校区健康まちづくり推進委員で、集団特定健診にあわせてがん検診の受診勧奨も実施。</li> <li>・隈庄校区自治協議会主催での健康講演会の内容(子宮がんについて)を広報誌に掲載し周知した。</li> </ul>	南区保健子ども課
8	校区の行事でのパネル展示 10回	北区保健子ども課

順位	カテゴリー名
6位	職域及び保険者との連携

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	医科歯科連携の強化	熊本市歯科医師会
2	保険者協議会・保健事業部会において、加入健保の被扶養者が居住する市町村においても受診可能となる環境整備を検討する予定。その一歩として各健保の検診体制を把握する目的でアンケート調査を実施予定。	熊本県保険者協議会
3	産業医として出向して予防医学の普及を行い、企業の健康経営へのアドバイスを行っている(約15社程)	日赤熊本健康管理センター
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大腸がん撲滅大作戦」では県内の企業のトップを招きチラシを配り、大腸がん検診啓発のトイレットペーパーを配り、関連企業へも購入促進を行った。</li> <li>・企業のトップにお願いし関連する友好企業を紹介してもらい連鎖状に訪問しがん予防の普及啓発をお願いしている。その際「がん検診受けましょう」タスキを掛けたクマモン人形や「大腸がんを受けましょう」を印字したトイレットペーパーを置いてくる。</li> </ul>	日本がん予防協会
5	『健康くまもと21推進会議』の参加で行政及び医療機関、地域や関係団体等と連携し、がん検診受診率向上にむけて協議した内容や情報を会員園の職員・園児・保護者等に伝え職域及び保険者との連携に努めた。	熊本市保育園連盟
6	熊本市商工会議所ホームページ「新着情報」に平成27年1月5日より「がん検診のご案内～クーポン～クーポン券の有効期限が迫っています」を掲載。【再掲2位7】	熊本商工会議所
7	職場における定期診断を確実に実施させるため、事業主に対して行政指導実施するなど働きかけている。	熊本労働基準監督署
8	日頃の民生委員・児童委員の活動の中で必要に応じ、関係機関と連絡、連携を取り合う。	熊本市民生委員児童委員協議会



2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	がん協定企業及び大学生とのパンフレット作成。【再掲2位1】 大腸がん、乳がん、子宮頸がん検診についてのパンフレットを関係機関とワーキンググループを設置し協働で作成した。	健康づくり推進課
2	商工会議所の広報誌で事業所むけにがん検診に関する情報提供を行った。	健康づくり推進課
3	・ふれあい出前講座で、がん検診周知・知識の普及 (H26.9.16実施:14名)(H27.3.19実施:20名) ・幼稚園教諭対象の講話で、女性のがん検診について周知 (H26.6.7実施:143名) ・すこやか栄養セミナー講話で、がん検診周知 (H27.1.16実施:22名)	中央区保健子ども課
4	協会けんぽや健診機関と協働で、3月に健康フェスタin東区を実施。特定健診やがん検診を実施。がん検診受診実績(胃がん:133人、肺がん:161人大腸がん:176人)	東区保健子ども課
5	区内の企業やJA、旅館組合等に対し、従業員のがん検診受診勧奨のためのポスター掲示及び、受診勧奨依頼を実施。(6ヶ所)	北区保健子ども課
6	特定健診とがん検診を同時に実施できる環境整備を図った。 H26年度 14ヶ所	国保年金課

順位	カテゴリー名
7位	未受診者への受診勧奨

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	セルフチェックによる早期発見の啓蒙	熊本市歯科医師会
2	保健師さんより、若い親世代に対するPRを行っている。	地域包括支援センター連絡協議会
3	データヘルス計画において、各健保の実施項目にあげてあるが個人情報保護の観点から課題について対応策を検討していく予定。	熊本県保険者協議会
4	・「人間ドック紹介」映像を作成完了し、イベント等での放映や献血会場へDVDを設置した。YoutubeやSNSでも発信中。 ・東区健康フェスタにて「人間ドック紹介」映像を放映予定(3月)	日赤熊本健康管理センター
5	学生サポーターの任務は専ら未受診者の受診勧奨を行うことである。テレビCMやKK T夢街ランド、RKK音楽宝石箱、リレーフォーライフといった市民参加のイベントに協賛しあらゆる世代に向け受診の大切さをアピールした。	日本がん予防協会
6	職員には、園長や健診担当者から受診を勧めるようお願いした。	熊本市保育園連盟
7	バザーの日に検診ができることを早くからよびかけていった。	熊本市小学校長会
8	未受診者と接する機会がある時に、関係機関を紹介するなど、民生委員・児童委員自身が把握しておくようにする。	熊本市民生委員児童委員協議会
9	個人的に向山瓦版で受診ルポを記事にしてはどうかと考えていたが、今年度はスペースがとれず、断念した。ただ、自身の受診体験を口コミで伝えたところ、前述のように、がん検診で早期発見できた方の体験談が聞けて、その場にいた方には刺激になったと考える。	中央区内
10	A3サイズ位のポスターで「がん検診を受けましょう」というコピーだけでいいので熊本市にポスターを作って欲しかったが、そこまで活動がいたらなかった。是非実現してほしい。活用方法として各町内掲示板、スーパー、銀行、郵便局などに掲示をする。	西区内

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	H26.6月末無料クーポン送付。クーポン未送付者(一定年齢の方のうち過去に受診歴がある方)へ熊本市がん検診の受診勧奨通知を送付	健康づくり推進課
2	・1歳半健診時(34回 延べ1,473人)、3歳児健診時(34回 延べ1,452人)へ熊本市のがん検診のパンフレットを配布し、啓発を行った。【再掲1位3】 ・中央区すべての校区で、イベント・健康講座・会議等の場のがん検診受診の普及啓発を実施。(実施状況 19校区 92回 延2,886人)【再掲1位2】	中央区保健子ども課
3	校区単位で行うイベント等での啓発 (86回、延2,815人に実施)【再掲1位4】	東区保健子ども課
4	1歳6ヶ月児健診 91回1,971人、3歳児健診 36回1,901人の保護者を対象にリーフレットを用いて啓発を行った。その他、CKD予防教室(3回101人)、糖尿病予防教室(2回81人)、健康まちづくりサポーター(33人)に対して啓発を実施。校区担当保健師より個別の家庭訪問、健康相談時にかんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲1位5】	東区保健子ども課
5	アンケート調査やがんクイズ等を通して、参加住民と情報交換を行いながら、住民の意識や行動実態を把握しながら啓発活動を実施した。	西区保健子ども課
6	イベントで個別に対応した校区:11校区、20回、569名に実施	南区保健子ども課
7	植木地区での健診結果説明会 7回 740人	北区保健子ども課

順位	カテゴリー名
8位	かかりつけ医をもつことの普及促進と連携

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	かかりつけ医による定期的なチェックの励行	熊本市歯科医師会
2	平成27年10月5日熊日朝刊(18面)に熊本市と協働で、身近な開業医をかかりつけ医に等適正受診を促した全段広告を実施。	全国健康保険協会熊本支部
3	病気のかかりつけもさることながら健診かかりつけ医を決めた方がよいと勧めている。以前のデータが見られることと問題点を持つ人はそこを重点的に精査できる。そのデータベースを基に個人及び地域社会健康度向上に役立てることができる。	日赤熊本健康管理センター
4	特に子宮頸がん検診については集団検診車より個別検診の方が受診しやすいし、婦人科専門かかりつけ医を持つようにすすめている。その受け入れとして市婦人科医会会長には口頭でお願いしている。	日本がん予防協会
5	職員には、かかりつけ医を持つことを勧めた。 保護者には、園児が食物アレルギー症状のある場合はかかりつけ医より診断書の提供をお願いしている。	熊本市保育園連盟
6	各区毎の定例会等でかかりつけ医の大切さについて伝えた。	熊本市8020健康づくりの会
7	区での取り組みの方法をサポートの会議ではかっけていきたい。	東区内

2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	校区単位で行うイベント等での啓発（86回、延2,815人に実施）【再掲1位4】	東区保健子ども課
2	校区単位の健康まちづくりイベント、健康学習会、11月の区民まつり、3月の健康フェスタin東区でがんやがん検診についての情報提供を行った。【再掲2位3】 ・校区単位で行ったイベント(上記①)86回、延2,815人 ・区民まつり 1回50人、健康フェスタ1回71人 ・校区単位以外のイベント等 5回 146人	東区保健子ども課
3	東区でがん検診のチラシを約5,000枚作成。「かかりつけ医師、歯科医師、薬局をもちましよう」と記載。説明しながら配布を行った	東区保健子ども課
4	健康相談や健康チェックのフォロー時に個別に実施。健康チェックでは、必要な対象にはかかりつけ医への紹介状を発行し、早期受診につなげることが出来た。	西区保健子ども課
5	10月に、特定健診の受診強化月間と同時に大腸がん健診の受診勧奨も実施。専用のチラシを作成し、地域の健康まちづくり活動と同時に、西区の医療機関でも啓発活動を実施した。	西区保健子ども課
6	高齢者サロン等で伝えた。	南区保健子ども課
7	医療機関に、かかりつけ医を持つことを勧めるポスターを、貼ってもらうよう依頼(植木地区)	北区保健子ども課
8	啓発リーフレット等で、かかりつけ医を持つことの必要性について周知を図った。	国保年金課
9	出前講座「賢い患者になるために」(3件89名)と「在宅医療って知っていますか」(8件201名)、(合計11件290名) で、かかりつけ医を持つことの普及促進を図った。また、平成26年度は、冊子「かかりつけ医のススメ」を作成したので、出前講座や講演会時等に配布した。	医療政策課

順位	カテゴリー名
9位	若い世代への教育

1. 関係機関・団体における主な取り組み

	具体的な内容	関係機関・団体
1	啓蒙とかかりつけ医による定期チェックの励行	熊本市歯科医師会
2	①家族ぐるみの健康づくりの推進を図る目的で、小学生のいる家族を対象に夏休み親子セミナーを実施予定。 ②10代～20代の社員も加えた職場における健康セミナーを実施予定。	熊本県保険者協議会
3	協会けんぽの生活習慣病予防健診を受けることのできる35歳該当年齢の方へ健診案内パンフレットを送付し、意識付けを実施。	全国健康保険協会熊本支部
4	・SNSにより健康情報を発信中(週1回程度) ・実習でまわってきた医学生、看護学生、PT・OTの学生等ががんを含めた予防医学の重要性と方法を伝えている。	日赤熊本健康管理センター
5	上記記載のとおり、学生サポーターたちは自分達同士もさることながら、後輩高校生へ自主的に働きかけがん検診の重要性を啓発している。その際の講師は私共でお世話する仕組みを作っている。 学生サポーターを更に増員し、サポーター向けの教育、サポーター間(大学間)の口の中の強化を重点的に行ってきた。	日本がん予防協会
6	子どもたちや若い保護者に、規則正しい生活習慣が身に付くように「早寝・早起き・朝ごはん」等を指導。園の給食では、共食の楽しさや食材と栄養バランス等の食育指導。咀嚼力向上の為に調理法を工夫した。また、食後の歯みがき等の実施で口腔ケアを習慣化し、園便りや保健便りで健康についてや園児の体調管理の大切さを知らせた。	熊本市保育園連盟
7	食生活を整えることでがん予防を含めた生活習慣病の予防につながる食育活動の実施。	熊本県栄養士会
8	・子育てサークルの活動の中で受診を口コミで呼び掛けた。 ・まちづくり活動の中で、小中のPTA役員さんに受診を口コミで呼び掛けた。	健康まちづくりを推進する中央区の代表
9	取り組み計画では幼・小・中に周知としていたが、まず西区全域の小・中学校の保護者にパンフレットを配布した。西区PTA理事会が年に数回開催されているが、会議に入れてもらい、西区保健子ども課の担当の方と一緒にいかに早期発見が大切かという話をさせてもらい、各小・中のPTA会長に配布の承認を受け、熊本市より学校便で各校に配布。それによってがん検診を受けた保護者がいたという報告を受ける。	健康まちづくりを推進する西区の代表

## 2. 行政における主な取り組み

	具体的な内容	行政(課)
1	がん協定企業及び大学生とのパンフレット作成。【再掲2位1】 大腸がん、乳がん、子宮頸がん検診についてのパンフレットを関係機関とワーキンググループを設置し協働で作成した。	健康づくり推進課
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会(児童・保護者対象) (2校区2回実施 保護者116名)</li> <li>・就学時健診時(保護者対象) (1校区1回実施 保護者89名)</li> <li>・中学生とサークルとの交流会での普及啓発(生徒・サークル保護者対象) (2校区10回実施 生徒379名 保護者51名)</li> <li>・大学・短大の講義で、がん検診について普及啓発 (H26.4.28実施 1校 132名)</li> </ul>	中央区保健子ども課
3	県立大学主催のイベント協力時に子宮頸がんについて啓発(2回 100人)、小学校PTAのバザー等での啓発(1回100人)、コミセン講座30人、地域の祭りで小学生向けにがんクイズを実施30人等を実施。学生や子どもを持つ親世代に啓発を行った。	東区保健子ども課
4	臨地実習生62人に対して、がん、がん検診、がん予防(禁煙も含む)健康教育を実施。	東区保健子ども課
5	校区単位の健康まちづくり事業で、各校区の地域イベントに参加。また、西区フェスタでは、20歳～30歳代の多くの来場者に、大腸がんの啓発活動を実施できた。	西区保健子ども課
6	区役所の事業説明と同時に、がん検診の受診方法について情報提供を行った。	西区保健子ども課
7	2)隈庄校区と豊田校区で、青少協と協働で小学生と中学生に健康標語募集し、優秀作品を掲載。【再掲2位9】	南区保健子ども課
8	中学校から依頼のあった薬物乱用防止教室の中で、喫煙による健康被害を説明し、喫煙しないように指導した。(参加者:115名)	医療政策課

1. Introduction

2. Methodology

3. Results

4. Discussion

5. Conclusion

6. References

7. Appendix

8. Glossary

9. Index

10. Acknowledgements

11. Author Biographies

12. Contact Information

13. Funding Sources

14. Declaration of Conflicting Interests

15. Informed Consent

16. Ethical Approval

17. Data Availability Statement

18. Supplemental Material

19. Corresponding Author

20. Copyright